



閉校に寄せて

立江中学校長 関貫 勉

昭和22年4月1日に6・3・3制の実施により徳島県那賀郡立江町立江中学校として創立されました。69年間にわたって幾多の人材を輩出し、地域の文化の拠点として輝かしい歴史と伝統を築いてきた立江中学校は、時節の流れとはいえ平成27年度をもって幕をおろすことになりました。

私は、昨年（平成26年度）本校へ勤務を命ぜられ着任いたしました。校訓「自主・協同・勉学」のもと、「あいさつができる、そうじができる、時間を守る立中生」をスローガンに、日々の教育活動に全力で取り組む生徒たちの姿に感動いたしました。自主性を育てる取り組みとしてのノーチャイムや先進的な取組をしてきたキャリア教育の実践、ほとんどの生徒が参加する早朝トレーニング、そして全職員が一枚岩となって日々の授業改善に取り組むなど、着実で見事なまでの教育実践がなされている学校だと感じました。

また、隣接する保育所との交流も計画的に実践しており、合同の運動会の開催や避難訓練、保育実習や職場体験学習への協力や卒業・卒園時の相互訪問など中学生と幼児との交流に接するたびに微笑ましい様子を見ることができました。これもまた、立江中学校生の情緒的な成長に欠かせない交流であったと実感するところです。

校歌もまた生徒はもとより卒業生にとって、心のよりどころとして深く心に刻みこまれる素晴らしいものです。現校歌は、昭和37年に創立15周年事業の一環として制定されました。作詩は、故森吉 芳先生（榑渚町出身）です。

「美しい立江川辺に 集ひたる若人われら 大いなる夢を求めて 青春のつばさ磨かむ」
「千載の生命誇りて そびえ立つ樟の緑よ 限りなく強き心に 自らの道を究めむ」
「県南の文化ひらけし 堂塔の栄誉讃えつ わきあがる力協せて 学び舎の光掲げむ」

改めて校歌に思いを馳せると、美しい流れの立江川は、この町で育った方々のふるさとのシンボルであり、そこに育つ若者が夢に向かって努力を続けてほしいという願いが読み取れます。また、千載の生命の象徴として校庭に今も残る巨木「樟」になぞらえて、若者が悠々と成長し続けてほしいという思いを感じます。さらに、立江町の由来立江寺に誇りを持ち、ここに集う若者が共に力あわせ未来に進もうという願いを感じる詩となっています。

立江中学校は、地域の願いを実現してくれる場であり、思い出の学舎を悠久のものとして永く大切にさせていただきました。5000名を超える卒業生や地域の方々には、閉校は格段の寂しさを感じておられることと拝察いたします。しかしながら、接待の心が根付く立江町の人情味あふれる風土や立江川の清き流れは永遠であります。「人は環境によって育てられる」と言われています。立江中学校校区の生徒たちは、「豊かな感性」と「人を思いやる心」をこれからも育てていくことを確信しております。これからこの町を支えていく若者たちにあたためたい見守りとご指導とご鞭撻をお願いいたします。